

	令和5年度行政事業レビューシート					(文部科学省)	
事業名	SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業			担当部局庁	国際統括官付		作成責任者
事業開始年度	令和元年度	事業終了(予定)年度	終了予定なし	担当課室	国際統括官付		国際戦略企画官 本村宏明
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	ユネスコ活動に関する法律(第4条)			関係する計画、通知等	-		
政策	13 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進			主要経費	その他の事項経費		
施策	13-2 国際協力の推進						
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20211224-mxt_kanseisk02-000019646_13-2.pdf						
事業の目的 (5行程度以内)	持続可能な社会の構築に貢献するため、SDGs(国連持続可能な開発目標)の視点を組み込んだ教育活動(ESD)を支援することにより、学校・大学をはじめとした国内の教育現場等におけるSDGs達成の担い手の育成を推進する。						
現状・課題 (5行程度以内)	ESDに関する国内外の動きを受け、さらに、昨今の国際情勢や新型コロナウイルスの流行、大規模災害等、様々な予測不可能なことが起こる現代だからこそ、ESD提唱国としてSDGs達成のための教育(ESD)の推進の必要性がより一層高まっている。 一方、国内の教育現場におけるSDGsやESDの理解や推進のための取組は十分とはいえない。SDGsやESDを教授する教員等への支援や多様なステークホルダーとの協働によるSDGsの取組の推進が求められる。						
事業概要 (5行程度以内)	学習指導要領において、持続可能な社会の創り手の育成が学校に求められる役割と明記されたことや、国連及びユネスコにおけるESDが全てのSDGs達成に向けた鍵であることを示した「持続可能な開発のための教育:SDGs実現に向けて(ESD for 2030)」の採択を受け、SDGs達成の担い手を育む多様な教育活動を支援する。具体的には、SDGsの視点を組み込んだカリキュラム・学習評価の開発や、持続可能な社会の担い手を育む教師の育成、それら様々な取組の普及、啓発等を実施する。						
事業概要URL	https://www.mext.go.jp/unesco/018/index.htm						
実施方法	直接実施、補助						
補助率等	定額						
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
	予算の状況	当初予算(A)	50	50	44	44	44
		補正予算(B)	-	-	-	-	
						-	
						-	
						-	
						-	
						-	
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	
		予備費等(E)	-	-	-	-	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	50	50	44	44	44	
	執行額(G)		43	41	39		
	執行率(%) =(G)/(F)		86%	82%	89%		
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]		86%	82%	89%			
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
	(項)		国際交流・協力推進費		※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。		
		(目)	ユネスコ活動費補助金	40			
		(目)	職員旅費	1			
		(目)	委員等旅費	1			
		(目)	諸謝金	1			
		(目)	庁費	0			
		(目)	その他	1			
計(A)		44	44				

活動内容① (アクティビティ)		国内の教育現場等における多様な教育活動(ESD)を実施・支援することによりSDGsの達成の担い手に必要な資質・能力の向上を図る。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		SDGsの達成の担い手に必要な資質・能力の向上活動の実施	本補助事業によって実施される研修会、セミナー、ワークショップなどの事業への参加者数（年度内延べ人数）	活動実績	人	13,535	18,061	20,828		
				当初見込み	人	23,500	23,500	23,500	23,500	
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会がESDの推進拠点と位置付けるユネスコスクールにおいて、本事業によって実施される研修会等で共有された知見が広がり、ユネスコスクールの教員のカリキュラム・教授法に変化がもたらされる。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 6 年度	
		ユネスコスクールにおいて、教員のカリキュラム・教授法に変化がもたらされる。	ユネスコスクール年次活動調査において、「教科領域を超えて横断的に取組むなど、カリキュラムマネジメントを工夫する」と回答した学校の割合	成果実績	%	53	57			
				目標値	%	55	55	57	57	
				達成度	%	96.4	103.6			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		ユネスコスクール年次活動調査 ※令和4年度は集計中であり、令和5年9月に公表予定。								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会がESDの推進拠点と位置付けるユネスコスクールにおいて、教科横断的なカリキュラムマネジメントが進み、さらに民間企業やNPO等、学校以外の団体や地域と協働した、多様なステークホルダーと連携したESDの取組が一層推進される。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 10 年度	
		ユネスコスクールにおいて多様なステークホルダーと連携したESDの取組が一層推進される。	ユネスコスクール年次活動調査において、「学校以外の団体と協働して活動する」と回答した学校の割合	成果実績	%	60	74			
				目標値	%	60	70	75	75	
				達成度	%	100	105.7			
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		ユネスコスクール年次活動調査 ※令和4年度は集計中であり、令和5年9月に公表予定。								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)

文部科学省
39百万円

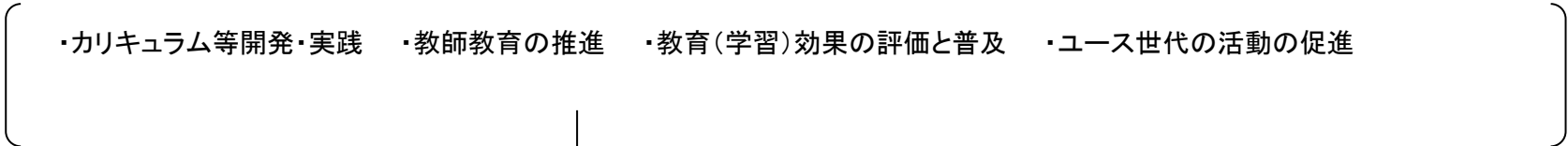
諸謝金
旅費

0. 4百万円
1百万円
を含む



【公募・補助】

A. 国立大学法人等
37百万円
(全12件)



【委託】

B. 一般社団法人SDGsコミュニティ
3百万円
(全1件)

